

SPRING
VOL. 02
480 YEN
定価税込

住まいの提案福岡。 *Jumai no Teian*

こだわりインテリアと
地元ビルダー実例集

懐かしく大切にしたい
スロウな暮らし。



Interview

永代ハウスの家づくり

日本の気候風土や生活習慣に根差した木の家を提案する〈永代ハウス〉。そこに至るまでには、様々なドラマがあった。同社が辿ってきたこれまでの道、そしてこれからの道。松村清一社長にお話を伺った。



永代ハウス 株式会社
代表取締役社長
松村 清一氏

建売住宅から注文住宅へ。コンクリート住宅、そして、木との出会い。

昭和62年の創業から今年で25年目を迎える〈永代ハウス〉。自らを「技術屋」と称する松村社長が、これまでどのような道を歩み、現在の家づくりに至ったのか。簡単にではあるが、その道筋を一緒に辿ってみようと思う。「まず佐世保で会社を始めて、最初は建売住宅だったんですが、“より安く、よりいい家を”ということで、工務店よりも品質管理が優れ、ハウスメーカーの家よりも質が高かつコストを抑えた家を販売していたんです。この“工務店とハウスメーカーの中間を狙う”という戦略が成功し、順調に施工実績は伸び、平成8年には年間180棟を施工した。

しかし、社会の波というのは怖いもの。平成9年に消費税5%が上がったことにより、住宅の消費量もガクンと落ちた。さて、今後どのような家を建てていくべきか。自問自答を繰り返した。「当時は、不動産屋、工務店、ハウスメーカー、それぞれが建てたものを見て、誰のものか分からないように思えたんですよ。技術屋である自分たちだからこそできる家があるはず。そう思った松村社長がまず最初に取り組んだのが、コンクリート住宅だった。「地震や台風にビクともしないし、リビングを思いきり広くしたり、可動式の壁や扉で、フレキシブル

に空間を利用できるからね」。“スーパーシェルター”という名前で売り出したこの住宅は長崎、佐賀のエリアで大きな反響を呼んだ。これをきっかけに、福岡にも進出した。

しかし一方で、コンクリートならではの課題も徐々に増えてきた。「コンクリートはどうしても湿気がね。結露になるし。固い、冷たいというイメージもありますよね。それを解消するために次に取り組んだのが、“木装コンクリート住宅”。木装というのは、外壁は頑強な鉄筋コンクリートでありながら、内部は自然素材を用いた木の家ということ。例えていうならば、松村社長曰く「コンクリートの鎧の中に、木造住宅をすっぽりと入れたイメージ」である。今でこそ自然素材が生かされた木造住宅の施工をメインにしている会社であるが、木との縁ができたのは、その時がはじめてであった。11年前のことである。

素直に惚れられる、“本物”の家づくり。新たなテーマへも積極的に。

本格的に木造の家に心が動き出したのは、無垢材の家具をつくっている知人が「福島に、松村さんと同じ様な考えでやっている会社がある」と、〈四季工房〉を紹介してくれたのが始まりだった。「展示場に連れていってもらって、目からウロコが落ちたんですよ。『こりやえぞ!!』と興奮してしまっって、もう、日本人として素直に惚れられる家だと思ったんですよ。木の性質を知り尽くした職人が木を刻み、釘などの金物を使わずに建てる家は、古びるどころか逆に味わいが増してくる。天然の無垢材や、漆喰、珪藻土などの自然素材にこだわりながら、省エネに対応するエアバス工法を導入することで、住む人の健康と地

見て、触れて、感じて、同社の家づくりを体感できる〈四季の家展示場〉。松村社長自ら床板を開け、〈エアバス工法〉の説明をしてくれた。長年考え抜いた末の家だけに、説明にも熱が入る。



今回話をお伺いしたのはこちらのモデルハウスです。

〔佐世保 四季の家 展示場〕
〒858-0907 長崎県佐世保市棚方町120-1
Tel./Fax. 0956-48-7188
■営業時間/11:00~17:00
(土日祭日は、9:00~18:00)

永代ハウスが目指す「すぐれた職人の技術を継承しながら、自然素材を使い、人と環境にやさしい家づくり」。その結晶が、このモデルハウスだ。向かいには宿泊体験ができる「道草の壺」もある。



球環境にやさしい家づくりをする。これこそ、“本物”だと思いたね。松村社長が〈四季工房〉の家づくりに惚れたのには、もう一つ理由がある。「5件くらい展示場に連れて行ってもらったんですけど、そこにいる女性スタッフが全員、“元お客さん”だったんですよ。そう、お客さんがそこで家を建てて気に入って、スタッフになったんです。それはもう、我々からしたら感動もんですよ。だからね、これはますます我々が目指すところだな」とこれを機に、主力商品を、天然木や自然素材を用いた木造住宅にシフトした同社は、現在では90%以上を木造住宅で占める。また電磁場リスクの軽減を図るため、床と配線の間に有機導電性繊維を入れアース処理する「オールアース住宅」もたびたび提案し、さらに家づくりを進化させている。その事例は、ぜひ次ページから紹介するご一家の家をじっくりと見てもらいたい。

近年では、「家と庭と木の融合」という新たなテーマにチャレンジしている。家を建てるだけでなく、適材適所に樹木を植えることにより、夏は緑が生い茂ることで日差しを遮り、冬は落葉することで光を取り入れる。また、

敷地に対して、建物を斜めに配置することで全部屋に庭を設けられ、さらに庭に奥行きを持たせるというのだ。「“家庭”という言葉は、家と庭、と書くでしょう。これは、とても意味のある言葉だなと思っています。四季折々の自然の顔を表現したいんです。庭と木に育まれ、家族が成長する。そのお手伝いをするのが、私たちの役目です。だから、家だけをつくるという感覚じゃだめなんです。家、庭、木、そして人。全てを育てることが私たちの仕事。これが“融合”という意味です」。

骨組みにおいて釘や金物などに頼らない、“木組み”に、職人の技が光る。手前のテーブルやチェアを始めとした多くの家具は、松村社長が惚れ込んだ職人との共同作品。

「お客さんも進化すし、ぼくも進化しなければいけない。“家と庭と木の融合”、楽しみにしていってください」。松村社長の家づくりへの情熱は、とどまることを知らない。



自然素材に徹底的にこだわり、 天然のエアコンを備えた家。

床、柱、天井、建具、全てに杉の無垢材を使い、心もからだも健やかに。
《エアバス工法》で、夏は涼しく、冬は暖か。

朝倉市 K邸



床、柱、梁、天井、建具と、全てに無垢材を使うことで、あたたかみのある空間に。日田の工場で購入したという、上質なテーブルとソファが空間を引立たせる。



1階の和室からリビングダイニングを臨む。引き戸を開けると開放感のある二間続きの大空間に。取材中も、三姉妹は裸足で元気よく走り回っていた。

木の香りと自然の暖かさ。 宿泊体験が決め手に。

木々が色づき始めた昨年10月、周囲を山々に囲まれた自然環境豊かな土地に、新居が完成した。この家に住むのは、Kさんご一家。Kさんが建替えを決めたのは、家の老朽化が理由だった。「前の家は、築100年以上にもなる家だったんですよ。雨漏りも若干あったり、浴室の屋根が湿気てうねって、瓦が落ちそうになったり」

それからというもの、雑誌や住宅展示場などで情報収集をしたが、いまいちピンとこない。たまたま近所で行っていた完成見学会に足を運んだのが(永代ハウス)との出会いだった。「まず家に入った瞬間に、ふんわりと木の香りが心地よくて。木がたくさん使ってたったり、自然の力を使って暑さ

寒さをやわらげてくれたりするというし。うちの子も少しですけど喘息やアトピーがあって、子どもの健康を考えると、この家はとてもいいな、と」。その後、同社が佐世保に持つ宿泊型モデルハウス「道草の癒」を訪ねたことが決定打となった。「隣接する“高気密・高断熱”の家と比べたんですけど、朝起きたときの暖かさが全然違って」。同モデルハウスが冬でも暖かい理由——それは、材に本物の無垢材を使っていることに加え、同社が勧める《エアバス工法》の力によるところが大きい。同工法は、冬は日中の太陽熱を壁や屋根から壁体内に取り込んで蓄え、夜間に放熱するので、冬の夜の寒さをやわらげ、補助暖房の使用を抑えることができる。一方夏は、

玄関ドアを開けるとすぐに、本物の無垢材の香りが迎えてくれる。目の前の引き戸を開けると客間も兼ねた和室が。右手に見える下駄箱は造作。中は、高さや幅、棚数など、家族構成を考えて設計されている。



永代ハウス 株式会社

➡ Builder Index P.000

壁体内や屋根裏に入り込んだ熱を、屋根裏のいちばん高いところから廃熱することで、夏の暑さのピークをカットし、エアコンの使用を最小限に抑える優れた効果を発揮する。家づくりは〈永代ハウス〉さんをお願いしよう— 夫婦に、迷いはなかった。

10月初旬から住み始めた新居の1階は、LDKが中心にあり、客間を兼ねた和室と合わせると、さらに広々とした開放感のあるつくり。先述したエアバス工法が取り入れられているのはもちろんのこと、リビングを南向きにしているため、大きな開口部から陽の光がたっぷり注がれ、とても暖かい。キッチン是对面式にし、子どもたちから目を離さずに家事ができるように。そしてなんとと言っても、注目すべきは、ご主人が何としても入れたかった薪ストーブ。建具にまで無垢材を使った暖かみのある空間としっくりなじむ仕上がりになっている。「からだの芯からあったまるという感覚がありますし、それが長く続くのがわかるんです」。でも、気になるのはその手間。奥さまの反応はどうだったのだろう。「最初は反対だったんです。どうせ、朝早く起きて、火を入れるのはわたしでしょ、って思ってた。むずかしそうだったし。でも、昨日こそ自分で火を入れてみたら、『あっ、意外に簡単につくんだ!』と思ってうれしかったんですけどね(笑)」。薪ストーブの使い方はいろいろ。暖まること、料理をすること、ただただ見つめること…。ゆらめく炎を囲みながら、きっと、家族のコミュニケーションを深めることに一役買ってくれることだろう。



ご主人こだわりの薪ストーブ。「手に入れようと思えば、こちらへは薪の宝庫ですよ(笑) けっこうな柿の産地なので、枝をもらえばいいからね。柿の枝は煙が出ないし、弾かないし」

広々としたダイニング。床は杉材で、足触りがやわらかく、かつサラサラ。大きな窓の先に、庭がある。



先々の暮らしを考えて、家づくりを。

ところで、自分が知っている範囲のみで家づくりを考えようとする、そもそも、どこから手をつけていいのかわからないであろうし、これから何十年と住み続けるということ想定していないと、統一感ある、満足のゆく暮らしができる家をつくりあげることがむずかしい。その点、Kさん一家は、設計士の安武さんにずいぶん助けられたのだという。「ご経験がたくさんあるので、引き出しがたくさんありますよね。今の家族の年齢や構成を考えて、提案が次から次に。私たちが『こうしたい』という思いはあるけれど、それをどうやって家のなかに取り入れればいいかわからなくて。提案してくれてはじめて『あー、そうかー!』って思うことがたくさんあったんです」。例えば下駄箱。「女の子が3人、ご主人の妹さん、奥さんか、女子率が高いね(笑)。ロングブーツが何足、ショートブーツが何足、最大で何十足必要ですね」という具合に設計してくれたんです。こうした提案が、収納スペースをはじめとして、あらゆるところで発揮されている。そんな安武さんに、設計のときに特に心がけていることを伺った。「私がお客さまの立場だったらどうだろうな、というのをいつも考えていますね。その上で、40年以上積み上げてきた知識、経験、キャリア、全て渡すんです。判断というよりは、提案。受け取るかどうかは、お任せします。だからどんどんお伝えする。でも、結果的には、多くの方に納得して頂きます。ぼくはいつも、何十年後の家族の幸せをいつも考えていますから」

「うちはまだまだこれからいっぱいやることもあるし、楽しみばかりですよ。ご主人が教えてくれた。「いまリビングから見える小屋を移動して、ウッドデッキをつくらうと思うんですよ。庭もいじりたいですね」。子ども3人の成長も楽しみだ。「本人たちがやりたいことをやりたい風らせてあげたいと思っています。体を動かすのが好きなら運動すればいいし、勉強したいなら塾に行けばいいし。ある程度情報提供はしてあげたとしても、最後に決めるのは自分ではない。親が決めてしまうと、あとあと後悔してしまうからね」。子どもというのは、いつだって、親が思っているよりもたくさんのことを考えているし、大人なものだ。山があり、川があり、自然環境あふれるこの土地で、この先誰と出会い、どのような遊びをみつけ、工夫をし、学んでいくのか。新居はきっと、そんな家族の思い出を刻み、家族と一緒に育っていくのだろう。何年後か、また、お話を伺ってみたい。そんなことを思わせてくれる印象的な取材であった。

エアバスの家だから、自然の力であたたかく。



左上・左下／〈エアバス工法〉は、エアコンなどの機械設備を使わずに自然の力(太陽熱、地熱)を利用して、「夏涼しく」「冬暖かい」住まいを実現する。腰屋根と床下に取り付けられた換気口を通じて空気が循環する。

右／換気口は、室内に設置された装置で、夏と冬の二回、開け閉めをする。機械に頼ることなく、あくまで自然の力を使っているため、メンテナンスの面でも安心だ。

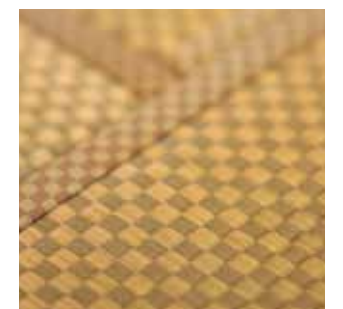


左上／水回りはキッチンと最短距離で結ばれ、申し分ない設計。隙間を作らず空間を一杯使った造作棚により、広々、スッキリとした空間となっている。

右上／リビング階段横にも、スペースを余すことなく収納が配置されている。

左／和室は、仕切れば客間として利用可能。玄関をあがって目の前に配置されているため、急な来客にも対応できる。

下／「この畳、めずらしいでしょ。これは地元の畳屋さんのものなんです。焼けてくると、さらにきれいな市松模様になっていくんですよ」とご主人。





子どもの面倒をみながら家事ができるよう、リビングを見渡せるように配されたキッチン。家族と会話できるのもうれしい。



壁材に使われている珪藻土は調湿性に優れ、見た目、機能面ともに無垢材との相性抜群。やさしく明かりを受けとめ、やわらかな表情をみせてくれる。



現在は長女と次女、仲良く一部屋を使っている。「今後、どれだけ一緒に家に住めるか分からないですね。だからせめて、できるだけ一緒に時間を持ってもらいたくて」とは奥さま。将来、望めば仕切りをつけて二部屋にすることも可能だ。



家の完成後、三姉妹は「永代ハウスの方へ」という手紙を贈った。「うれしかったですね。営業、設計、現場、それぞれの担当者へのコメントも書かれています。子どもは、よく見ているんですね」と設計の安武さん。



四季それぞれに豊かな表情を見せる木々に囲まれた地に、Kさん邸は佇む。陽の光を一杯取り入れるため、あえて土地なりではなく、リビングが真南に向くように設計されており、違和感なく周囲の自然環境に溶け込む。将来は、手前にある小屋を移動して、ウッドデッキをつくる予定。

One Point!

Kさん邸は、「自然」という言葉がキーワードだろう。材は、九州産の低温乾燥材を構造材に、天然乾燥した大分県の津江杉を床材に使用。壁は、木と同様、調湿作用がある珪藻土。それに加えて、太陽熱と地熱を利用して快適な空間を生み出す「エアバス工法」。昔の日本の家は自然の力を最大限に使っていたが、Kさん邸はまさに、原点回帰、とも言える仕様になっている。

DATA [工期/約200日 プラン/フリープラン 工法/エアバス工法(木造軸組工法)]

敷地面積/923.04㎡(279.22坪)	断熱材/ポリスチレンフォーム	開口部/YKK
延床面積/154.25㎡(46.66坪)	屋根材/防災陶器瓦	キッチン/タカラ
1階面積/100.75㎡(30.48坪)	外装材/サイディング	バスルーム/リクシル
2階面積/53.50㎡(16.18坪)	内装材/珪藻土	竣工年月/2011年10月
基礎/ベタ基礎	床材/30mm 杉(津江杉)	家族構成/夫婦+子ども3人



敷地内にあるビニールハウスで、「とよみつひめ」という福岡県オリジナルのいちじくを栽培するご主人。田んぼも所有しているため、季節によって米や野菜もつづっている。



永代ハウス 株式会社

〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南5-15-9
☎ 0120-412-188
<http://www.eidai-house.co.jp/>
巻末ハガキ、FAX、WEBより資料請求ができます。
詳しい企業情報は、P.000をご覧ください。

永代ハウス 株式会社
EIDAI HOUSE

http://www.eidai-house.co.jp

いえ
体験宿泊展示場「道草の癒」

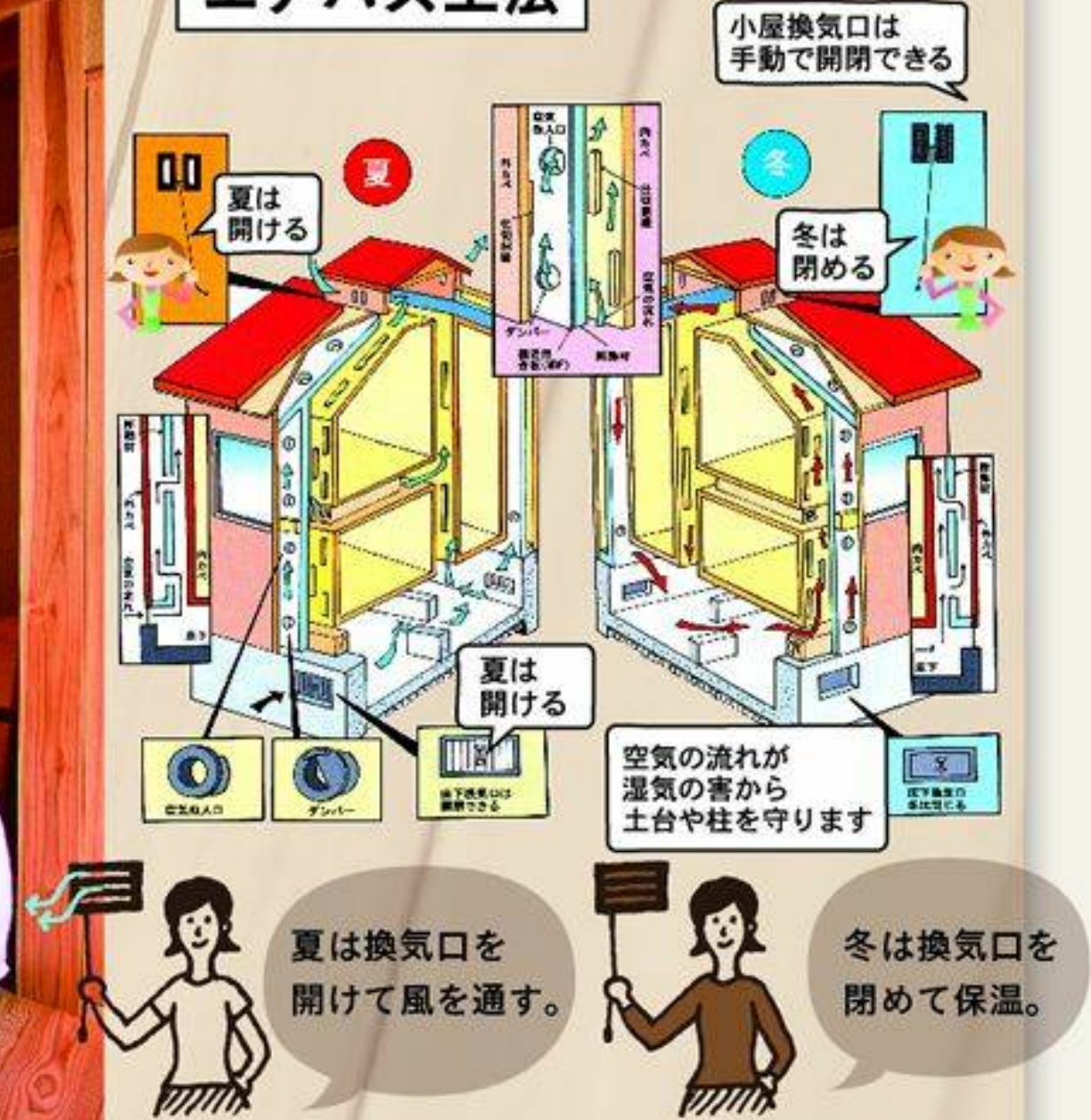
永代ハウスの特徴のひとつが「エアバス工法」。パッシブソーラーハウスと、新外断熱工法・壁体内通気工法の特徴を兼ね備えた工法で、夏は涼しく、冬は暖かい快適な住み心地を可能にする。現在、エアバスの家に体験宿泊できる「道草の癒」の予約を受付中。詳しくは、右記の連絡先までお問い合わせを。

「道草の癒」
〒858-0907
佐世保市棚方町120-32
■営業時間/11:00-17:00
(土日祭日は、9:00-18:00)
お問合せ ☎0120-194-243



エアバス工法+自然素材の家=空気が違う
だからいつもカラッと快適な住み心地。

エアバス工法



永く住み継ぐ、
自然素材の家づくり

〈永代ハウス〉は、創業時から一貫して日本の気候風土や生活習慣に根ざした家は木の家であるというご提案を続けています。経験豊富な職人が確かな技術で建てる日本伝統の家。天然の無垢材や漆喰、珪藻土といった自然素材にこだわりながら、省エネに対応するエアバス工法を導入。天然木へのこだわりを守りながら、新しい技術も積極的に取り入れ、住む人の健康と地球環境にやさしいオンリーワンの家づくりをすすめています。

お客様の声チーム/江上



【福岡支店】〒812-0016
福岡県福岡市博多区博多駅南5-15-9
☎0120-412-188

【福岡西営業所】〒819-0381 福岡県福岡市西区泉1-26-33
Tel.092-806-9488

【本社】〒857-0052 長崎県佐世保市松浦町4-17
☎0120-194-243

【長崎支店】〒850-0822 長崎県長崎市愛宕3-19-13
Tel.095-818-4088

【佐賀支店】〒843-0023 佐賀県武雄市武雄町大字昭和293-1
Tel.0954-23-5388

Blog <http://eidai-house.co.jp/fukuoka/>

■許可・登録/特定建設業、建築工事業、国土交通大臣許可(特-19)第19667号、一級建築士事務所登録、長崎県知事登録第116035号、宅地建物取引業 国土交通大臣許可(3)第5763号

■事業内容/木造注文住宅の設計・建設・販売、コンクリート住宅の設計・建設・販売、宅地の企画・造成・開発・販売、ビルの設計・販売、公共事業(建設・土木)、不動産取引業、テナント、賃貸マンション、経営コンサルティング

■取扱工法/エアバス工法(木造軸組)

■保証体制/建物本体(構造)保証10年、ベランダ保証(10年)、シロアリ保証5年、基礎パッキン保証10年、地盤保証10年(または20年)※アフターメンテナンスは随時対応しています。

■標準工期/4ヶ月

企業情報

■設立/昭和62年12月 ■従業員数/60名

■資本金/4000万円 ■年間施工実績/130棟

■本体価格の目安 1,000万円台 2,000万円~ 2,500万円~ 3,000万円~

※詳しくは、お問い合わせください。

■施工対応エリア 福岡 北九州 筑後 筑豊 佐賀

※福岡県、佐賀県、長崎県で対応しています。